

網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.90
2020.5

春が来ましたよ～

ルリタテハの“春”宣言

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

成虫で冬を越した“ルリタテハ”

思いもかけず静かな5月を過ごしていたある日の夕方近く、湯の沢橋の袂に止まっていたルリタテハに出会いました。カメラを向けた途端に“パッ”と視界から消えてしまうほど俊敏で長年写真に収められずいました。はやる気持ちを抑えつつレンズを向けると、案の定“パッ”と瞬く間に飛び去ってしまいました。「今回もダメだったか…」と半ば諦めていると、またやってきて同じような場所に着地。息を潜め一歩近づくとまた“パッ”。旋回するように飛んできては止まり、近づくと“パッ”の繰り返しです。コツコツと距離を縮めてようやく間近で観察することに成功。遠目からは翅の縁にある瑠璃色が目立っていますが、高級絨毯の毛並みを思わせるピロード状の体もうっすら青みがかりました。羽化してすぐに冬を迎えるためか翅はそれ程傷んではいない様子です。冬を無事に越して森を飛び回る姿は生命そのもの。「ここにも春がきたんだよ！」と高らかに宣言してくれたように感じた出会いでした。

What is “Ruritateha”?

『動きの速いタテハチョウ』

タテハチョウ科

開帳：約 50～65mm

分布：日本全土

タテハチョウ科では珍しく食草はサルトリイバラ、ホトトギス、ヤマユリ、シオデなどの単子葉植物。成虫は樹液や腐果などを好み、オスには占有行動が見られる。裏翅は全体的に褐色で翅を閉じていると樹皮や枯葉に紛れて見つかりにくい。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



岩手山はどこから見ても美しい。季節を問わずよく晴れた日、岩手山がくっきり見えると思わず携帯電話を取り出して写真を撮りたくなってしまふ。車を走らせていて、

「ああ、今日の岩手山は最高だな・・・写真撮りたいな・・・」などと思いを巡らせていると、路肩にハザードランプを点滅させている車によく出会う。大きな望遠レンズの本格的なカメラマンから、私のような携帯カメラ愛好家まで、写真を撮る姿は様々だが、岩手山に魅せられて・・・という思いは同じではないだろうか。

私のとっておきの1枚に選んだこの写真は、

小畚から三ツ石山荘へ戻る途中で撮影したものだ。どの角度から見ても美しい岩手山だが、こちらからの角度は、普段の生活の中では見る事ができない。南からや東からの見慣れた姿とも、北からの荒々しい姿とも違う私の心の中の南部富士の姿である。景色に魅せられて撮影したものだが、その美しい景色を構成しているのは、手前からチシマザサ、ハイマツ、森林限界のオオシラビソ、さらに奥に見える樹林帯と大きく挟れた山並み。そして写真には写らない多くの命。岩手山の植生、火山の歴史、命の営み・・・。壮大なドラマを持つ1つ1つの命が繋がって、この景色を作っている。理屈抜きで心が美しい！と感じるから絶景なのだろうけれど、美しいと感じた景色について掘り下げて考えることも視点を広げる1つになるのかもしれない。

この写真を撮影日したのは2019年9月の半ば過ぎ。三ツ石山の紅葉はまだ早いとの情報だったが、この時期になるとあの真っ赤に染まった景色が見たくてソワソワしてしまう。「下見だね」などと言いながら友人と出かけた。奥産道の駐車場には既にたくさんの車が停められていた。ギリギリ駐車場に停めて出発。穏やかな登山日和だと思って歩いていたが、徐々に風が強くなり、カメラを素手で操作した後は手が悴むほどだった。岩に手をやると優しい温かさ。なんだか気持ちも温かくなった。情報通り紅葉には早かったが、この日の景色が見られたことに感謝したい。

別の機会と一緒に歩いた友人が、この角度の岩手山を「漢字の山だね」と言った。素直に「ああ、なるほど！」と思ったが、これは人によって見解が分かれる。その後歩いてみて、私個人的には、三ツ石山荘から三ツ石山に登る途中から見える岩手山の方がより「漢字の山」に近い気がするがどうだろうか。

新シリーズ 「網張 岩手山 私のとっておきの1枚」

網張、岩手山周辺で撮影した1枚の写真とそこから広がるエピソードをご紹介します。

「盛岡管理官事務所に着任いたしました」

環境省 国立公園管理官 秋月 亮介さん



はじめまして！4月に盛岡管理官事務所に着任いたしました、秋月亮介です！現在環境省7年生で、これまでは箱根（神奈川）、熊野（三重、和歌山）、那覇（沖縄）、川湯（北海道）と1～2年毎に事務所を転々としています。現場事務所は盛岡で4カ所目ですが、いずれも齢八十を超える古参公園ばかりを担当しており、なにか運命を感じています。

私、山にも海にも紫外線にも弱い引きこもりレンジャーを自称していますが、前任地ではロングトレイル開発のための藪漕ぎ踏査をしたり、今にも割れそうな凍った湖の上での調査に同行したりと、なかなかハードな教育を受けましたので、盛岡でもいろいろなことにチャレンジしてみようと思います！

着任してからしばらくの間、冬季閉鎖で現場に行けず、また疫病の影響で人と会うこともままならない状態でしたが、少しずつ、雪も緊張も解けてきたので、これから皆さまにお会いできる機会が増えることを心待ちにしております。前任の荒巻に引き続き、これからどうぞよろしくお願いいたします。

◆管理官よりお知らせ！◆

網張ビジターセンターの改修工事が着々と進んでおり、現在は管理棟（温泉館側）が使用できなくなっています。懐かしの昔道具などが見られなくなってさみしいですが、新しい展示で再登場！…するかも？

